

# 小平西のきずな

「小平西地区地域ネットワーク」ニュース No. 31

2019年9月24日（火）発行

発行責任者:草野篤子(白梅学園大学)

TEL: 042-346-5639

住所:〒187-8570

東京都小平市小川町1-830

## 日本世代間交流学会第10回大会

草野篤子（白梅学園大学名誉教授）

日本世代間交流学会第10回大会を、この10月6日（日）に、白梅学園大学・短期大学で開催することになりました。今回は、白梅学園大学・短期大学子ども学研究所ならびに私たちの小平西地区地域ネットワークの共催でおこないます。

西ネットが創立されてからおおよそ7年7カ月を迎えます。2011年3月11日の東日本大震災・津波・原発事故がきっかけになって、白梅学園大学・短期大学を中心として地域周辺の皆様と、地域コミュニティの重要性を、ひしひしと感じて作り上げてきています。

世代間交流で重要なのは、高齢者・中年世代、若者世代、子どもが生活の多様な側面で、繋がりをもって暮らし、結びつきが薄い場合には、計画的にその結びつきを作りだしていくことが、求められています。増え続ける高齢者が、自分自身の人間発達と地域や社会の向上に繋がっていることは、少子高齢社会のこれからの展望にとって必須です。

国際世代間交流協会(International Consortium for Intergenerational Programs)によると、世代間交流プログラムとは、「高齢者と若者の間における意図的で、継続的な、資源の交換と相互学習」であると、言われています。これには、大学をはじめとした様々な学

### 小平西地区ネットワークって何？

2012年3月17日に白梅学園大学関係者が様々なNPO、ボランティア団体、民生・児童委員、町内会、大学・学校などに関係する方々に呼びかけて「お互いの顔が見える人間関係が豊かな地域づくり」を目指して立ち上げました。個人ベース（団体の担当者でも可）の加入を基本とする開かれたネットワークです。市民の皆さん一緒に活動に参加なさいませんか？

校、保育園・幼稚園、地域社会、特別養護老人ホーム等の施設、病院などをはじめとした、様々な場で見られる、継続的なプログラムや実践が含まれています。

世代間交流のプログラムや方策は、高齢者の福祉と、子育ての両方のニーズへの対応、教育制度の補強、高齢者の生活の質の向上、祖父母と孫との関係の改善、永年の伝統、文化遺産に対する人々の意識の向上、地域社会における一人一人の支援体制の強化を促す有効な手段となるのです。

日本世代間交流学会第10回大会は、多くの団体からご協賛・ご後援をいただいています。内閣府、文部科学省、厚生労働省、東京都、小平市、小平市教育委員会等々です。

口頭発表、ポスター発表は、教育関係者、福祉関係者、地域での実践者、保健・医療専門家など、あらゆる分野から、世代間交流に関するそれぞれの知見や経験が発表されます。そして今回は、小平西地区地域ネットワークで活躍している多くの団体、グループが参加するワークショップを行います。

本大会をきっかけに、世代間交流の学習や実践を推進し、他に類をみない世代と世代を結ぶ全国大会になることを、切に望んでいます。世代間交流は、日本だけでなく、世界に広がっています。来年9月16日から18日には、兵庫教育大学で、国際世代間交流協会の世界大会を開催予定です。

白梅学園大学・短期大学での第10回大会が、さらに多世代のコミュニケーションを促し、新たなパートナーシップを生み出す大会になることを、心から願っています。

# 日本世代間交流学会第 10 回大会の内容

1. 日時:10月6日(日)10~17時

## 2. 時程に沿って

(1)受付(9時30分~)

(2)講演(10時~)

## 「生涯発達と世代間交流」

~子育て・親育ち・地域の絆~

講師:内田伸子氏

(お茶の水女子大学名誉教授)

\*この部分は白梅学園大学・短期大学子ども学研究  
所家族地域支援セミナーとして公開(1000円)にな  
ります。以下の学会の内容に参加を希望する場合  
は別途参加費を払うこととなります(ワークショップ  
に出展する方々は必要ありません)

### (3)口頭発表(13時~)

各大学などで研究されたことを口頭で発表するもの  
で、以下の内容が予定されています。

- ①語り継がれてこなかった戦争孤児体験  
—世代間交流の視点からの問いかけ—
- ②気がつけば成長が止まらない  
—老若男女それぞれ主役のエピソードから—
- ③音楽による世代間交流の課題  
—歌い継がれる歌、歌い継がれない歌—
- ④遊びと世代間交流  
—遊びの本質における世代間貫通性と固有性の  
関係—
- ⑤世代間で知るワクチンの大切さ
- ⑥鳥取県における子ども食堂の活動状況と世代間  
交流~アンケート調査の結果と事例研究から~

### (4)まちづくりワークショップ

- ①コミュニティサロンほっとスペースさつき
- ②コミュニティサロンほっとスペースきよか
- ③コミュニティサロンほっとスペース西の風
- ④わかった会
- ⑤ほっとスペース上水の家 権田助産所

⑥NPO 法人こだいら自由遊びの会

⑦白梅学園大学発達教育相談室

⑧CARE-Japan

⑨白梅子育て広場

⑩社会福祉法人村山苑ほんちよう保育園・ほんちよう  
ケアセンター

⑪社会福祉法人白十字会特別養護老人ホーム白十  
字ホーム

⑫認定 NPO 法人芸術と遊び創造協会

### (5)ポスター発表

- ①人と地域を結ぶ木育
- ②ふれ合い体験を中核とした家庭科保育学習の実  
践的取り組み—家庭科保育学習 中学生と乳幼  
児のふれ合い体験事例集の制作—
- ③高齢者と子供の交流が両者の心身に与える効果  
—施設へのアンケート調査結果を中心に—
- ④運動部所属学生における高齢者イメージに関する  
研究—大学剣道部員に着目して
- ⑤【鶴川モデル】地域の大人の能力を経済的に評価  
し幼児教育の豊かさにつなげる実践的研究 2-幼  
稚園における多世代の生涯発達—
- ⑥対象の特性別に見た多世代間交流の実施目的と  
交流内容
- ⑦自己有用感を伴う世代間交流と精神的健康との関  
連:自尊感情の媒介効果の検討
- ⑧父親を対象とする子育て支援プログラムを介した  
世代間・家族間交流の実践と展望
- ⑨「高齢者における子ども観尺度」の作成に向けた  
予備的検討—既存尺度の適用可能性及び高齢  
者による子どもイメージの自由記述から—
- ⑩ジェネラティブティは地域高齢者の健康状態を予  
測するか?
- ⑪囲碁を活用した世代間交流プログラムが児童の高  
齢者イメージに及ぼす影響

### (6)閉会式

## 3. 後援

- ①内閣府
- ②厚生労働省
- ③文部科学省
- ④東京都
- ⑤小平市
- ⑥東村山市
- ⑦小平市教育委員会
- ⑧東村山市教育委員会
- ⑨日本世代間交流協会
- ⑩小平市社会福祉協議会

# 白梅子育て広場

## 「7月あそぼうかい&世代間交流」報告

### 渡邊(発達臨床学科1年)

2019年度7月あそぼうかいでは、「なつだ！うみだ！  
ハワイだ！」というテーマをもとに



た。受付コーナーでは入り口から、参加者さんにテーマを感じてもらえるよ



うに装飾や、名札をつくり入りやすい環境をつくりました。おわりのつどいコーナーでは絵本をモチーフにした劇をやり、ハワイを感じてもらえるようにフラダンスを取り入れました。

7月あそぼうかいの合計参加者数は148人という結果で、天候が悪かったにも関わらず4月あそぼうかいの約2倍にもなる多くの参加者さんに来てもらうことができました。次回の11月あそぼうかいでは4月・7月のあそぼうかいの反省を生かしてより良い環境づくりを心がけたいです。

1年生が主体となり活動しました。子育て広場全体で協力し、5月中旬から7月あそぼうかいに向け、コーナーごとに予定を立て、本番に挑みました。子ども・保護者・高齢者・地域の方にも楽しんでもらえるようなあそびを考え、スロープや、あそびコーナーでは足跡のマークを床に貼り、あそびを待つ位置や、通行する方向が分かるような資格提示も制作しました。また制作コーナーでは椅子に座った時に杖の置き場に困らないよう杖の置き場所をペットボトルを切り、椅子にくくりつけました。ホットコーナーではウォーターベッド(袋の中に水が入っている)をつくり、子どもたちが感じたことのない感触を表現し、楽しんでもらい、とても多くの人に利用してもらうことができまし



# 「小平市子どもサミット」が開催されました

白梅学園大学・短期大学子ども学研究所が主催した「小平市子どもサミット」が開催されました。7月28日(土)は小学生、8月7日(水)は中学生ということで企画されました。しかし小学校は台風で中止となりましたので、「小平市中学校子どもサミット」について報告します。

当日は白梅清修中学校の生徒の司会で進行されました。6月に実施し7月にまとめた「小平市子ども調査(小平市に暮らすことについてアンケート)」で出された要望をもとにして、どのようなことを小平市に提出していくのかを相談しました。

「小平市子ども調査」では「①学校での生活は楽しいか」「②自分のことを好きだと思うか」「③親や地域の人など、小平市の大人たちは、小平の話をよくしているか」「④家以外で、安心して過ごせる場所が小平市内にある(学校を含む)」「⑤小平は『こうだったらいいのに』とか『こうしたらいいのに』など、変えた方がいいところがあるか」「⑥小平にしてほしいことや変えてほしいことを友達とよく話すか」「⑦18歳になって選挙で投票することは、小平にとって大事なことだと思うか」「⑧18歳になって選挙で投票することは、自分にとって大事なことだ」「⑨大人になっても小平市に住みつづけたいか」「⑩その他」について聞きました。詳細については別の機会に報告しますが、小平市内の小学生1100名、中学生1200名に聞いたも

のでとても興味深い結果となりました。それをもとに子どもたちの「要望」案を作成し、小学生と中学生に検討してもらいました。子どもたちの要望は多彩で、全部で30項目を超えています。

8月20日には白梅学園大学・短期大学の担当者とサミット参加応募者の子どもたちと一緒に小平市役所を訪れ、教育長出席のもとに報告書として要望を提出しました。子どもたちの率直な要望に対して、小平市として積極的に対応するという回答をいただきました。そしてこの要望については小平市が現在準備している「小平市長期総合計画」に反映されることになっています。以下小平市に提出された「要望」を載せておきます。



2019(令和元)年8月20日

小平市長 小林 正則 様

小平市子どもサミット応募者代表

## 2019 小平市子どもサミットからの報告書

私たちは2019年に白梅学園大学・白梅学園短期大学子ども学研究所が主催し、小平市及び小平市教育委員会が後援した「小平市子どもサミット」に応募しました。小平市子どもサミットでは「小平市に暮らすことについてのアンケート」を踏まえて意見をまとめましたので、以下の点について小平市として検討していただくことを要望します。

### 1. 学校での生活や学習について

- (1) 学校での生活は大変楽しいので今後も楽しい学校を守って欲しい。
- (2) アンケート結果で自分のことを好きだと思わない人がいるので、もっと自信を付けさせて欲しい。
- (3) 違う学校の人たちとたくさん遊びたい。
- (4) 小学生から高校生まで参加できる議会をしてみたい。
- (5) 市内の部活動交流会の日を増やして欲しい。
- (6) 学校の給食をもっとおいしくして欲しい。
- (7) 大学や高校の見学をさせて欲しい。
- (8) ボランティアに参加しやすいようにして欲しい。

- (9)小学生にも投票の体験をさせてほしい。
- (10)学校の図書館に司書の先生を置いてほしい。
- (11)給食の器を陶器にしてほしい。
- (12)給食のメニューを子どもに考えさせて欲しい。
- (13)体育館に冷房が欲しい。
- (14)ランドセルではなく、リュックサックなどでの登校も認めて欲しい。また安いランドセルやランドセルを譲ったりする制度があると良い。
- (15)学校へ持っていく荷物が多いため、もっと学校に置いておけるようにしてほしい。
- (16)土曜日の授業をなくしてほしい。
- (17)タブレットやスクリーンを活用した授業をして欲しい。

## 2. 地域での生活について

- (1)子どもが安心して過ごせる場所が少なくなっているため、学校を含めてもっと子どもが楽しく遊べる場所を考えて欲しい。
- (2)特に家族で楽しめる場所が無料で使えるような施設が欲しい。
- (3)近いところに地域センターや公民館、児童館が欲しい。
- (4)祭りをもっと増やして欲しい。特に地域の伝統を伝える祭りが欲しい。
- (5)小平の特産であるブルーベリー狩りがもっとできるように増やして欲しい。
- (6)昔遊びのベーゴマなどができる場所が欲しい。
- (7)ひと月に1回地域センターや公民館で話をする時間を作って(確保して)欲しい。
- (8)小さい子どもから高齢者までみんなで楽しめるようなミニ運動会があって欲しい。
- (9)小中学生に小平の図書館について紹介して欲しい。
- (10)障がい者も楽しめる公園が欲しい。
- (11)地域のひととのふれあいの場が欲しい。
- (12)不審者対策をしてほしい。特に暗いところは街灯を増やしてほしい。
- (13)地域で見守ってくれる人を増やして欲しい。
- (14)図書館が暗い、図書館の自習室がきちんとした施設になってほしい、クーラーを使うのに○度以上にしないと使えないとかではなく、環境問題も大事だけど、もっと工夫して欲しい。

## 3. 小平市全体について

- (1)無料で野球が出来る広い場所が欲しい。
- (2)スポーツ施設、スケートボード場やテニスコート、ボルダリングなどを作って欲しい。
- (3)テニスコートを増やして欲しい。
- (4)大きなショッピングモールや映画館等を作って欲しい。
- (5)プールを充実させて欲しい。
- (6)小平に自然が豊かな公園を増やして欲しい。
- (7)ごみの有料化によってゴミの排出を減らせるのではないかと安くしてほしい。
- (8)森の木でおもちゃづくりをやりたい。
- (9)フィールドアスレチックやツリークライミングができる場所が欲しい。
- (10)家族や友達とゲームを楽しめる場所が欲しい。
- (11)大人も子どもと一緒に楽しめる場所が欲しい。またそれを知らせてほしい。
- (12)外国の姉妹都市をつくってほしい。
- (13)防災訓練で地震などを体験できる場所が欲しい。
- (14)戦争体験をできれば学校単位で聞かせて欲しい。
- (15)小川駅を新しく開発する計画があるらしいがそれを説明して欲しい。環境が変わってしまうのに意見を言う場がない。
- (16)都心のようになるのではなく自然を生かして欲しい。

サポート:白梅学園大学・白梅学園短期大学子ども学研究所

# 地域活動「分かった会」に行政のサポートを 福室英俊(ふくむろ ひでとし)

6月より、わかった会に講師の一員として参加しております福室英俊と申します。わかった会には、様々な理由で生徒は参加しています。経済的に予備校に通えず、そのかわりとして参加する生徒。勉強をする習慣をつけるために参加する学生。親から言われてただ通う生徒。当然、学習の習熟度もモチベーションも違います。わかった会の講師の先輩方は、生徒一人一人に寄り添い、生徒のニーズに応えようと努めておられました。



わかった会は、週一回の開催ですが(秋からは一部週二回になるそうですが)、生徒達の大切な居場所の

一つになっていると感じました。地域のこどもたち(生徒)を、地域のおとなたち(講師)が見守る。わかった会の活動は非常に有意義で、素晴らしい取り組みです。

わかった会には今後解決を目指していかなくてはならない課題がいくつかあると会長にききました。

1つは、講師の数と質をどう確保していくか。もう1つは、会場をどう確保していくかです。わかった会は生徒から受講料をとっていませんから、予算もありません。人ない場所ない予算ない、これはボランティアで地域に貢献をしている多くの組織が直面する課題ではないでしょうか。

素晴らしい地域活動をしている団体が、西ネットにはたくさんあると聞いております。そんな団体が活動に行き詰まることのないよう、まずは多くの地元住人・市民に活動を認知してもらい、そしてゆくゆくは行政からサポートを受けられるようにしていかなくてはなりません。地域活動をされる方の年齢層も年々高くなっているとききます。若い世代の一員として・地域のみなさまに育ててもらった一員として、今後わたしにできることをしっかりやっていきたいと思います。

## 小平南西部地域コミュニティタクシーを考える会

### —再実証実験運行について—



小平南西部地域にコミュニティタクシーを走らせることについては、3年前から考える会が組織され、小平市の公共交通課が窓口

になってルート案の作成や実証実験を行ってきました。この8月まで上水本町・一橋ルートの実証実験運行を行いましたが、当初の目標を達成できず、振り出しに戻ってしまいました。この間「考える会」では南西地域ルート再検討を行い、また地域へのアンケートを行って新たな実証実験運行ルートを検討しています。

新たなコースについてはまだ確定ではありませんが、もう少し買い物などがしやすいコース取りとなるように検討しています。なお実証実験において1日50人乗ることが条件となっていますが、他の地域と比べて居住者の数が限られており、同じ条件で運行の可否を決めることについても意見が出ています。

いずれにしても1月頃から予定されている再実証実験運行については、できるだけ多くの皆さんが利用することをお願いしたいと思います。また小平市役所や小平市福祉センター等に行くにあたって交通の便がない南西地域としては、津田町まで来ている南東地域のコミュニティバスと連携することが必要です。その点についても小平市の方に要請していくことが必要です。

# 2019年度第1回懇談会報告

6月11日18時より、今年度第1回の地域懇談会が開催されました。参加者は30人とそれほど多くはなかったのですが、武蔵野美術大学の斉藤啓子先生を講師に



迎えて、武蔵野美術大学がどのように地域に関わっているのか、なぜ斉藤先生が地域に関わるようになったのかなどを話していただきました。斉藤先生は大学時代に遊びの創造性に出会い、一貫して地域と結びついた美術教育を進めています。

この間に取り組んだこととして、立川駅西側の地下道を小学生から大学生まで参加して絵を描いたこと、大学間連携の一環として「まちで楽しむ」を武蔵野美術大学で行い、市内の大学生や地域住民の参加が多かったこと、ムサビ・アクティブラーニングとしてワークショップの発表会を行ったこと、旅するジャックとして黒板ジャック

を実施し、多くの子どもたちに喜ばれたこと、ルネこだいら夏休みフェスタとして8月に取り組み、材料を地域センターの回収ボックスで協力してもらったこと、卒業してしまったが防災クエストとしてワークショップを行ってきたことなどを報告してくれました。質問も出されて大変有意



義な会になったと思います。

講演の後全体で10月に予定されている「第10回日本世代間交流学会」に向けての実行委員会報告を行いました。

そして最後に各ブロックに分かれてコミュニティ・サロンについての話し合いを行い、8時過ぎに散会しました。この日は情報紙「小平西のきずな」の30号が発行され持ち帰ってもらいました。

## 白梅学園大学・短期大学白梅祭にご参加下さい



(昨年の白梅祭のコミュニティカフェと展示です)

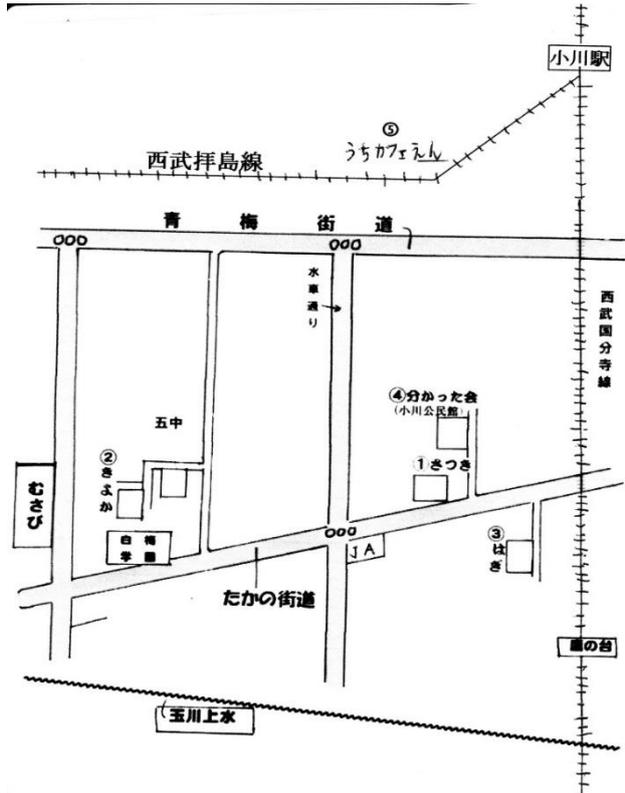
10月19日(土)20日(日)、白梅学園大学・短期大学白梅祭が開催されます。展示や模擬店の他に講演会なども予定されています。小平西地区地域ネットワークもB22教室にて展示とコミュニティカフェを行います。地域の交流を考えていますのでお茶を飲みながら懇談してください。

当日9時から15時までひらいていますので、学園祭の見学を兼ねてご来場ください。また何か展示できるようなものがありませんでしたらお寄せ下さい。当日でも大丈夫です。

**皆さん、コミュニティ・サロン(下の①～⑤)と「中学生勉強会」(④)に足を運んでみませんか?**

お待ちしております！ (右の地図を参照)

- ① **ほっとスペースさつき**  
毎週火曜と木曜 10:00～16:00  
問い合わせ：渡辺 穂積  
TEL: 042-344-7412
- ② **ほっとスペースきよか**  
毎週月曜 11:30～15:30  
問い合わせ：石川 貞子  
TEL: 090-7732-2089
- ③ **アットホームはぎ**  
毎月 7, 17, 27 日：14:00～17:00  
問い合わせ：萩谷 洋子: 042-342-1738
- ④ **「分かった会」小中無科学習教室**  
毎週木曜日 18:00～20:30 (小川公民館)  
問い合わせ：奈良 勝行 (講師募集中!)  
TEL: 090-4435-4306
- ⑤ **子育てサロン「うちかフェェん」(小川西町)**  
毎週月・水・木・土 10:00～15:30分  
問い合わせ：伊藤絹代  
TEL: 090-5441-6219



**イベントの予定**

- 10月06日(日) 日本世代間交流学会 (白梅学園大学にて)
- 10月19日(土) 白梅学園大学・短期大学学園祭
- 10月20日(日) 白梅学園大学・短期大学学園祭
- 11月10日(日) さつきミニバザー (10時～)

**西ネットの今後の予定**

- 大学世話人会：10月08日(火) 18時～
- 地域世話人会：11月19日(火) 18時～
- 大学世話人会：11月05日(火) 18時～
- 大学世話人会：12月03日(火) 18時～
- 懇談会：12月17日(火) 18時～

西ネットの世話人

ブロック	地域世話人	学内世話人
1	西 克彦・丸山安三	瀧口 優・杉本豊和 福丸由佳・山路憲夫
2	足立隆子・芳井正彦・ 今野志保子	午頭潤子・土川洋子 吉村季織
3	石川貞子・大内智恵子・ 久保田進・穂積健児・ 杉浦博道・吉田徹	金田利子・草野篤子 西方規恵・牧野晶哲
4	桜田 誠・萩谷洋子 福井正徳・細江卓朗 渡辺穂積	井原哲人・森山千賀子
全体		奈良勝行・長谷川俊雄

**お願い**：この広報紙『小平西のきずな』の編集方針は、「顔の見えるネットワークづくり」を目指して参加団体(者)の活動などを紹介し、文字通り「市民のきずな」を築いていこうとするものです。ニュースの全部または一部を改編することはお断りします。もし使用したい場合は編集担当(奈良まで)お申し出下さい。

**投稿募集**：このニューズレターは皆さんと一緒に作るものです。活動の報告やイベントの企画などについての原稿をお寄せください(奈良勝行)。

メール：[ever.onward.nara@xd5.sonet.ne.jp](mailto:ever.onward.nara@xd5.sonet.ne.jp)

**編集後記**：「小平西のきずな」も今回で31号を迎えます。3ヶ月に1号の発行なので、7年半この小平西地域の動きを伝えてきました。もちろんここに載せられなかったものも沢山あるので、それらを含めてもっと地域の顔が繋がっていくことを期待しています(瀧口)。